

彦根での賀詞 交歓会に65人

水道バルブ工業会

水道バルブ工業会（会長＝吉岡榮司・クボタ取締役）は1月16日、新年賀詞交歓会を彦根市内で開催した。会員ら65人が出席し、新年を迎えた喜びを分かち合った。



田淵理事長

冒頭、田淵泰志・理事長（栗本鐵工所執行役員）が「管路老朽化など

が進行しており、ライフラインの強靱化を図るため、各会員が地道な活動や努力を積み重ね、信頼や存在感がある団体に」とあいさつ。

来賓の尾原正史・日本水道協会大阪支所長と赤松忠之・同支所滋賀検査事業所長を紹介後、市川

孝・同工業会理事（クボタ業務執行役員）が一致団結による閉塞感打破を祈念した乾杯の発声後、和やかなひと時を過ごした。この間、今年1月にキッツエスジーエスの社長に就任した高橋淳之氏が初参加となり、決意を述べた。

2026年2月2日 水道産業新聞より抜粋

強靱化推進に対応

水道バルブ工業会・賀詞交歓会



田淵理事長

水道バルブ工業会は1月16日、彦根市内で新年賀詞交歓会を開催した。正会員・賛助会員のほか、日本水道協会大阪支所の尾原正史支所長と赤松忠之滋賀検査事業所長を来賓に迎え、約70人が参加した。

冒頭、田淵泰志理事長（栗本鐵工所執行役員）が「管路老朽化による漏水や人口減少に伴って水需要が減少していること、水道管の老朽化による漏水等の事故が起こっていることに触れた上で「昨年

6月に第1次国土強靱化実施中期計画の閣議決定で、水道分野でも断水時の社会的影響が大きい大口径や中口径の更新時に導送水管の冗長化を実施していくことが決まっている。これを受けてしっかりとライフラインの強靱化が進められることを期待したい」と語った。

また、工業会の活動として「製品の維持管理の大切さを伝えることが重要であるため、引き続き技術講習会を実施していきたい」と意気込んだ。

2026年2月5日 日本水道新聞より抜粋